



# 紫雲児の心

## いじめを許さない紫雲寺地区を創ろう

校長 五十嵐 めぐみ

「いじめは良くない」ということは、みんながわかっています。でも、なかなかなくなりません。いつでもどこでもだれにでも、いじめは起こりうるものだからこそ、紫雲寺中学校では、いじめについて日ごろから繰り返し、生徒たちに考えてもらうようにしています。

11月25日（火）の全校朝会では、私自身が中学校時代に経験した2つの話をしました。

1つは、グループのリーダー的な生徒の思い通りに行動しなかったためか、仲間外しにされたことです。しかし、辛かったときに、私の気持ちに寄り添い、優しく声をかけて心配してくれた友だちがいてくれたお陰で、いじめに屈することなく、頑張ることができました。小学校から仲良しだった友達も、中学校に入ってから仲良くなった友達もいました。その子たちは私に、「大丈夫？」と優しく声をかけてくれて、私のそばに一緒にいてくれました。いじめている人たちを注意する勇気はなかったのですが、ただそれだけで救われました。「私にはこんなに優しい友達がいるんだ。負けるもんか！」と、勉強もスポーツも係や委員会活動も頑張りました。やがて、周りが私を見る目も変わり、自然にいじめはなくなっていきました。

もう1つの話は、私もいじめる側に加わってしまったことです。積極的にいじめていた訳ではありませんが、周りから避けられていた子に対し、私もつい冷たくしていました。その子は勉強もわりとでき、悪いことをする訳ではないのですが、少し変わっているところがあったので、特に女子から避けられていました。卒業が近づいた頃、当時流行っていたサイン帳を女子みんなが持ってきて、男女を問わず「何か書いて」と回し始めたのですが、その子に回す女子はいませんでした。私は何だか心がもやもやして、「サイン帳はクラス全員に書いてもらおう」と決心しました。でも、なかなか勇気が出ません。最後の最後によりやく勇気を振り絞って、その子に「書いて」とサイン帳を渡しました。その時の光景は、今でもはっきり覚えています。その子は驚き、一瞬固まった後、私のサイン帳を両手でうやうやしく受け取りながら、「ありがとうございます！」と、深々と頭を下げたのです。みんなが驚きました。近くにいた男子が、「おまえは書いてやる方なんだから、お礼は言わなくていいんだぞ。」と笑い飛ばしてくれたので空気が和みましたが、女子の中には後で私に「なんで渡したの？」と聞いてくる子もいました。私が渡したのは、その子がかわいそうだからではなく、仲間外しにしている自分が許せなかったからです。自分が外された経験から、外された人の辛い気持ちがわかっていたはずなのに、周りと同じ行動をしていた自分が許せなかったのです。あれ以来、私は、一人でぼつんとしている人を見ると、自分から声をかけるようになりました。そして、「どうして、もっと早く声をかけなかったんだろう。」と後悔したことを、一生忘れません。

7月に生徒指導主事から、いじめについての話がありました。いじめをしないのは当たり前で、見逃すこともいじめていると同じです。いじめを見逃さない気持ちをもって、さらに行動（アクション）を起こせる人になってください。

本日11月28日（金）に予定しておりました、紫雲寺小学校5・6年生との「いじめ見逃しゼロ集会」につきましては、インフルエンザ拡大防止のため、中止とし、それぞれの学校で「いじめ見逃しゼロ」についての取組を行いました。ご家庭でもぜひ話題にいただき、いじめを自分のこととして捉え、正しい行動につなげていけるよう、お力添えをお願いいたします。